

## 9 / 3 校長室より 346



色づく木々

「あの時の対応は あれでよかったのか、  
もう少し専門的な知識や技量があれば、  
別な対応もあったのではないか…。」

そんな思いから、定年退職後 1 年半を経過した今も  
20 代の学生と肩を並べ、大学院で “学び直し” を  
されている先生がいらっしゃいます。

絶えず自分自身を見つめ、  
ものの見方や感じ方に思い込みや偏りが無いのか、  
何かに囚われていないかと、  
自らの心の在りようを意識しながら  
学びを深められています。

退職後の素晴らしい歳の重ね方だとは思いますが、  
誰もが簡単にまねできることではありません。

ただ、先生のその姿勢に触れることにより、  
教員として現職である今この時に、  
子どもたちに対して  
どんな関りを為すべきなのかを  
考えることはできます。



決して上手な関りではないかもしれませんが、  
すばやく対応し 心を伝えること、  
アドバイスできなくても 話を聞いてあげること、  
苦しい思いを 一時であっても共有すること…

こうした対応に  
常に誠実でありたいと思っています。